令和７年度　第２回酒田市総合教育会議議事録

開催日時	令和７年 11 月 11 日（火）13：30～14：45
開催場所	酒田市役所７階　703 会議室
出席者	矢口明子市長、赤坂宜紀教育長、神田直弥委員、阿部浩委員、鶴田淑子委員、工藤亜紀子委員
（市長部局）	前田茂男総務部長、加藤義和企画部長、伊藤慎司企画調整課長
（教育委員会事務局）	堀賀泉教育次長、斎藤正人企画管理課長、庄司英一企画管理課学区改編・義務教育学校整備主幹、今井綾子学校教育課長、佐藤好博学校教育課指導主幹、前田聡子社会教育課長、樋渡隆スポーツ振興課長
協議事項	（１）酒田市立第四中学校義務教育学校の進捗状況について （２）酒田市立第四中学校義務教育学校の教育方針（案）について

１　開　会　（伊藤企画調整課長）

２　挨　拶　（矢口市長・赤坂教育長）

３　協　議　（座長　矢口市長）

（１）酒田市立第四中学校義務教育学校の進捗状況について
（２）酒田市立第四中学校義務教育学校の教育方針（案）について
庄司企画管理課学区改編・義務教育学校整備主幹、今井学校教育課長から説明

<意見交換>

【矢口市長】

教育方針を策定し、それを基に基本構想や具体な方向性をいつまでに作成する予定か、再度説明をお願いします。

【庄司企画管理課学区改編・義務教育学校整備主幹】

基本構想については、12 月議会に上程する予定です。この基本構想の中には、基本方針含め、基本設計や造成設計などの業務も盛り込んでいく形で策定していきます。そのため発注段階では、ある程度方針を決めておく必要があると考えています。

【矢口市長】

基本構想については、このスケジュールで進めると、令和 9 年度末までに完成する予定です。その中には、基本構想と教育方針が含まれます。現在ある酒田市立第四中学校区義務教育学校基本計画（以下、基本計画）をベースに、教育方針を策定していくためご意見をお聞きしたいと思います。

本日の協議のキーワードは「教育」「地域」「連携」です。

まずは 1 つ目の「教育」面についてお伺いします。義務教育学校としてどのような児童生

徒に育って欲しいか、期待や願い。また、小中一貫教育の特徴を活かした特色ある教育について、どのようなことを期待するか。学年段階の区切りについてなどご意見いただければと思います。

【神田委員】

本市は既に小中一貫教育に力を入れて取り組んでいます。これが施設一体型の義務教育学校になり、小学生と中学生が一緒に学ぶことができるようになります。この強みをぜひ生かしていただきたいと考えています。学び合い、つまり、学んだことをほかの人に教えることも重要です。特に、主体的な学びが重視されている中で、自分が考えるだけでなく、学年を超えた学び合いや教え合いが大切だと考えています。

次に、具体的にどのようなことを進めていくかについてですが、将来の日本の変化を考えていくと、現在ＡＩが急速に進化している中で、いくつかの仕事がＡＩによって取って代わられる可能性があると言われています。先日、経済産業省が発表したところによると、2040年には理系人材が330万人不足する一方、事務や営業職は320万人余剰になるという予測が出ています。これが15年後に訪れる。非常に近い未来です。

高校生のうち、理系を志望している方が今３割のようですけれども、これを４割に増やすための取組が求められています。また、大学ではデジタルやグリーンエネルギー分野の人材が不足しているため、それに対応する学部を作るための支援が進んでいる状況です。

酒田市の子供たちが将来、どのように活躍するかを考えると、予測困難な時代であることは間違いありませんが、ＡＩやデジタル技術を駆使して課題を解決する人材になることが求められると思います。そのため、理数系の学びに触れる機会を増やし、全員を理系にするということではありませんが、科学や技術に対する関心を高めることが重要だと考えています。地方では、科学に触れる機会が限られがちですので、バランスよく文系・理系の学びに触れ、科学にも関心を持っていただけるような取組が必要ではないかと思っています。

最近では、ＳＴＥＡＭ教育（科学・技術・工学・芸術・数学）を取り入れた教育も広がりつつあります。例えば地域特性を生かし、農業をテーマにした分析や、防災のためのセンサーを活用して防災リスクを測定する取組もできます。酒田市でもＤＸが進められていると思いますが、これらのデータを活用して地域課題に取組むことも、科学に対する関心を深めるきっかけになるのではないかと考えています。

【矢口市長】

ありがとうございます。今のお話をお聞きして、ちょうど本市では「中村ものづくり事業」を長年進めていますが、これは第四中学校区にある東北エプソンの創設者から始めた事業でもあります。神田委員がおっしゃったことについて、ぜひ実現できればと思います。ほかにご意見いかがでしょうか。

【阿部委員】

基本計画Ｐ.１（１）「学年が上がるに従い自己肯定感の低下が見られる」、Ｐ.２「自己効力感－「自律する力」「尊重する力」「創造する力」－」、自分はやれるんだといったチャレンジ精神や自分を信じる力。これらをどう育んでいくかが大切だと思います。

私は農政課の花いっぱいプロジェクトに携わっており、年に一回、小学校で出前授業を行っています。子供にとっては学校生活とは違う自分に出会える機会になり、先生方にとっても、普段の学校生活では気付かない子供たちの一面を発見するきっかけにもなっています。この花いっぱいプロジェクトは、正解・不正解がない授業です。自分でお花を作るという体験が、みんなに認められることで、まさに自己肯定感や自己効力感を高めるきっかけになっているのではないかと感じています。

義務教育学校においても、地域の方々や企業が学校に入っていくことで、先生たちも新たな発見があり、子供たち自身もまだ知らない自分に出会う機会になると思います。大人たちが、さまざまな考え方を提供し、先生とはまた違った視点で選択肢を伝えることができると思います。義務教育学校では、こうした活動を通じて子供たちを成長させる授業の展開に期待しています。

【矢口市長】

ありがとうございます。教育長も常々、「地域の方々にはどんどん学校に入ってきて欲しい」とおっしゃっています。この取組がさらに進む学校になればと思っています。ねらいとしては、自己効力感を高めることや、教科だけではなく、さまざまな場面で「頑張ろう」という気持ちを育てることです。そういった機会がたくさん増える学校になれば素晴らしいですね。ほかにご意見はございますか。

【鶴田委員】

阿部委員の内容と重なる部分があると思いますが、やはり自己効力感や、人としての根っこを育てることがとても大切だと感じています。私自身の経験でもありますが、学生時代に美術や音楽、図工の授業で、評価されることに対して抵抗感がありました。評価に意識を向けると、自分が本当に表現したいことがなかなかできず、非常にもどかしかったです。今、元気がない子供たちや、いろいろな事情を抱えている子供たちと接していく中で、芸術の力の大きさを改めて感じています。

私自身、土門拳記念館や酒田市美術館、アーティストのライブに一緒に訪れて鑑賞することを大事にしており、評価されない中での自己表現が大切だと感じています。酒田市には多くの企業がありますので、その企業から廃材を提供してもらい、本来ゴミになるようなものを活用して、自由な発想でモノを作る授業があってもよいのではないかと思います。廃材ではなくても、家にある新聞紙やダンボールを使って、自由に何かを作るだけでも、子供たちが元気を取り戻すきっかけになることを最近身近で感じていました。

【矢口市長】

ありがとうございます。こういった機会が増えるとことを期待しています。

【工藤委員】

基本計画Ｐ.２に「平成 29 年度行った学校教育の課題の整理・分析から、「学習指導」と「生徒指導」という２つの大きな課題が浮かび上がり、課題解決の有効な手段の一つとして全市をあげて小中一貫教育に取り組むこととしました。」とあります。確かに小中一貫校ができることは、少子化が進む中での有効な方法であると思います。しかし、小中一貫校ができたか

らといって、全てが解決するわけではないと思います。ですので、具体的な手法、そしてその9 年間の教育内容をどのように進めていくかが重要です。小学校の６年間と中学校の３年間では、教育の内容が全く異なります。それを１つの９年間に統合するという点で、具体的なイメージが私自身まだできていないのが現状です。課題解決につなげるためには、具体的な方法を今後考えていかなければなりません。

もう１点、Ｐ.３にメリットデメリットが記載されていますが、デメリットについて、まさにその通りだと思います。現在の小学校６年間では、児童会があり、高学年の子供たちがリーダーシップを発揮し、中学校に進学することでさらに成長するという流れがあります。しかし、9 年間の一貫校ができると、こういったリーダーシップを発揮する機会が少なくなり、自分をアピールする力が育ちにくくなるのではないかと感じています。小学校の低学年や中学年にも、自分をＰＲしたい子供たちがいると思うので、そのような機会を奪わないような工夫が必要ではないかと思います。９年間という長い期間なので、どう進めていくべきかを模索し、探っていくべきだと思います。

また、年齢が低いほど、お兄さんお姉さんたちに従うという意識が強くなるかもしれません。その中で、1 人ひとりの個性を伸ばすことが大切です。そのような素敵な学校になることを期待しています。

【矢口市長】

ありがとうございます。私自身も、小学校と中学校が別々の学校だったので、このデメリットについては確かにそうだなと思いますし、義務教育学校がすべてメリットばかりというわけではないと私も考えています。できる限りメリットが多くなるような形にしていく必要があると思います。

教育長、今までの内容について何かコメントがあればお願いします。

【赤坂教育長】

今、委員の皆さんが言ってくださったこと、私も同じ考えです。まず、子供たちはさまざまなことに興味を持っていると思います。それがみんな同じではなく、個々に違うので、主体的に学ぶ子供たちを育てるためには、いろんな学びの機会を提供することが大事だと思います。ある子は芸術に興味があるかもしれないし、別の子は理数系が得意かもしれません。そうした個々の得意分野に触れる機会を増やしたいと思っています。

そのためには、企業や地域の方々の協力が必要です。本物に触れる機会をこの義務教育学校ではたくさん作りたいと考えています。子供たちが「自分はこんなことに関心があるんだ、集中できるんだ」と感じられるものが１つでも見つけられると、学びの発展に繋がると思います。そんな機会を地域全体で作っていければよいと、強く感じています。

また、誰ひとり取り残さない教育を目指して、発達障害のある子供や、特異な才能を持つ子供、不登校傾向の子供にも目を向けていかなければなりません。個々の子供たちを理解し、支援するためには地域の協力が必要です。大人たちが協力して、地域全体で子供たちを見守る学校を作っていきたいと思っています。

この地域にはたくさんの企業があり、人材が豊富ですので、キャリア教育にも力を入れて

いくことで、子供たちの自己肯定感や自己効力感を高めていけるのではないかと思います。そのような機会が増えることで、子供たちは自分の選択肢を広げ、最終的に自分の個性や自分らしさを発揮できるようになるのではないかと思います。

【矢口市長】

ありがとうございました。

それでは、2つ目の切り口として「地域」面についてご意見をお伺いできればと思います。

令和10年度に、5つの小学校、十坂・新堀・広野・浜中・黒森が統合されますが、これにより、4地区から小学校がなくなります。その後、現在の予定では令和15年度に、宮野浦小学校と第四中学校が統合され、この地域からも小学校がなくなります。

お聞きしたいのは、新しい学校と学校がなくなる地域との繋がり、または学校がなくなっても地域が発展していけるように、どのようなことが必要になるか、ご意見やアドバイスがあれば、非常に悩んでいるところですので、ぜひお聞かせいただきたいです。

【神田委員】

まさにご指摘の通り、学校の一括統合は子供たちの学びという観点では非常によいことですが、地域との関わりをどう作っていくかという点については、選択的に何かを進めていく必要があります。そうでないと、近くに子供の姿が見えなくなってきて、無関心になってしまう地域が出てくるかもしれません。

基本計画Ｐ.６「整備コンセプトと整備方針」の方針Ⅳ「安全・安心に学べる学校（地域の防災拠点としての学校)」という項目が気になりました。基本的にはバス通学になるため、通学中の事故の減少が期待されますが、一方で、移動に関して自ら主体的に判断して行動する機会が減ることが懸念されます。

学校での安全教育は、単に在学中に事故に遭わないためのものではなく、生涯にわたって安全な生活を送るための基礎を養うための学びの場です。通学そのものも学びの場の一環になりますが、この通学の中で学ぶとことがやりにくくなるかもしれません。

現状では、各小学校や中学校では地域の見守り活動が行われており、子供たちは守られながら学んでいる状況ですが、この見守り機能を地域で維持・強化するこができれば、さらによいと考えています。具体的には、安全な行動を推進するために、知識のある大人がアドバイスする機会を設けることが有効です。

また、地域の大人が子供に安全行動を教えるだけでなく、小学生と中学生が学び合う場も提供できるのではないかと思います。例えば、中学生が小学生に「なぜルールを守らなければならないのか」を教え、それを実践することができます。また、今度は子供が大人に対して、「私たちはこんなことに気を付けているので、大人も車を運転するときはこんなことに気をつけてほしい」というような話をすることもできると思います。

このような学び合いの場を設けることで、子供たちとの関わりが継続し、さらに強化されると思います。そのための１つのきっかけとして、交通教育は非常に有効だと考えています。自分自身で移動できる能力は、自立した生活を送る上で非常に重要です。バスで安全に通学できたとしても、それ以外の場面で自ら判断して移動する能力を養うことが必要です。その

ような安全教育を考える際に、学校だけでは対応できない部分もありますので、地域の力を借りていく必要があると思います。これらの仕組みを地域一緒に作っていけるとよいのではないかと考えています。

【矢口市長】

具体的な提案をありがとうございました。

【鶴田委員】

教室配置に関して１つ意見があります。現案では、別室としての専用の部屋が用意されていませんが、必要ではないかと考えています。もちろん別室に行くことも難しい子供もいると思います。そうなると、子供は家にいることになるかもしれませんが、地域の方々と協力して、そういった子供たちが使える場所があってもよいのではないかと思っています。

例えば、月に１回や２回、コミュニティセンターや使われなくなった学校などを活用する方法も考えられるかもしれません。そういった場所で、家からは出たいけれども、学校に行くのが難しい子供たちが、ボランティアや地域の方々と繋がることができる交流の場を設けることができればよいと思っています。

【矢口市長】

ありがとうございます。私たちも子供たちの居場所づくりについて考えています。学校に行くことができない子供や、学校に行っている子供でも、学童保育に通っていない子供たちはどこでどう過ごしているのか。長期休みも含め、重要な視点だと思っています。

委員おっしゃる通り、まずコミュニティセンターで子供たちの居場所を作ることができないかと考えています。これまでも各コミュニティセンターで子供の受け入れを行っていただいていますが、令和８年度から酒田市としても、その取組を後押しし、さらに各コミュニティセンターで子供たちの居場所を提供してもらえるように支援したいと考えています。

【阿部委員】

私からは、地域の伝統文化の継承についてお話させていただきます。市長がおっしゃったように、各小学校の地域には、それぞれ子供たちが携わっている伝統文化が１つや２つあります。私が住む宮野浦では毎年お正月に「大黒舞」という行事があり、子供たちが日枝神社で奉納の舞を行っています。

昔は宮野浦の５、６年生限定で行っていましたが、携わる子供たちが少なくなり、対象を広げ、現在では3～６年生まで幅を広げてようやく継続できている状況です。このように、各地域で伝統文化に携わっている方々には、幅を広げていただけるような仕組みづくりをお願いしたいと思います。伝統的なことなので難しい面もあるかもしれませんが、例えば中学校区の子供たちも携われるように、地域の大人たちから考えていただければと思います。

地域の伝統を守っていくことは郷土愛を育むことにも繋がりますし、大人たちも安心して地域の子供たちに預けていくことができるようになっていくと思います。

また、小学校の利活用についても考えていかなければなりません。例えば、スポーツ少年団やクラブ活動など、学校施設をどう使っていくかという課題も並行して考えていく必要があると思います。

【矢口市長】

委員おっしゃる通り、統合に伴う課題はさまざまありますので、時間をかけて丁寧に議論していく必要があります。伝統文化については、やはり全国的にも門戸を広げて守っていこうとする事例が増えていると聞いています。ぜひ、黒森歌舞伎のような伝統文化も、中学校区全体で参加したい子供たちが取り組めるようになれば、素晴らしいことだと思います。

【工藤委員】

今、阿部委員がおっしゃったことに繋がるのですが、各地域には伝統文化に限らず、いろんなお祭りや行事があります。せっかくなので、その地域だけでなく、例えば宮野浦の大黒舞に浜中の子供たちが研究しに行ったり、義務教育学校の子供たちが、今日は宮野浦の研究をしようと言って、おじいちゃんおばあちゃんたちの話を聞きに行ったり、そんな活動ができるとよいのではないでしょうか。

学校生活の中でその時間が確保できるかどうかは別として、地域が大切にしているものを子供たち全体で学び、酒田を知るよい機会になると思います。また、こうした活動を通じて、子供たちの郷土愛も育まれるのではないかと思います。

小学校がなくなることに寂しさを感じている人も多いと思いますが、先日、義務教育学校の説明会に伺った際、「自分たちのためではなく、子供たちのために早く学校を作ってほしい」という意見もありました。ですので、そういった大人たちの気持ちを大切にしつつ、子供たちが地域とともに歩んでいけるような学校を作り上げていく必要があると思います。

【赤坂教育長】

最初は、従来の地域意識が残るかもしれませんが、私はだんだんと第四中学校区が子供たちにとっての「地域」になっていくのだと思います。ですので、子供たちには自分が住んでいる地域だけでなく、さまざまな伝統文化も含めて多角的に学んでいってほしいと考えています。

例えば、総合的な学習の中で、自分が「これを調べてみたい」「これを研究したい」といったテーマを見つけ、探究していくことが大事だと思います。さらに、神田委員もおっしゃっていましたが、子供たちが自分で調べたことを大人に発表する機会を持つことも重要です。先ほど交通の話がありましたが、大人から教えてもらったり、逆に大人に対して自分たちが学んだことを伝えたりすることで、学び合いの機会が増え、子供たちの成長が促進されると思います。やはり地域にどんどん子供たちが行って、地域の人とか、いろんな伝統文化とか、ヒト・モノ・コトに触れていく、そういった機会を作っていくことが、これからの学校には大事なのではないかと思います。

【矢口市長】

ありがとうございます。本当に、選択肢が広がるというふうに考えればよいですね。

それでは、「連携」面についてお聞きしたいと思います。地域連携も重要ですが、ここでの連携の意味は、第四中学校区における企業や東北公益文科大学、ほかにも学区内にある地域資源との連携について、どんな資源があり、どのような連携が可能か、アイディアをいただければ大変ありがたいのですがいかがでしょうか。

【神田委員】

東北公益文科大学では、現在公立化に向けて準備を進めているところです。この地域にとって必要な人材を育成する機能を、これまで以上に強化することが求められています。その中で、地域の子供たちに対する学びの場の提供や連携が、今後ますます重要になると思いますので、ぜひご活用いただければと思います。

また東北公益文科大学では、これまでジュニアドクター鳥海塾という、小中学生を対象とした理数系人材の育成を行ってきました。その中で感じたことは、子供の教育に関しては、多くの方が協力してくださるということです。ですので、お願いすることに対して躊躇せず、まずはお願いしてみると、意外と「いいですよ」と協力していただけることが多いです。今後は、地域プロデューサーの方を起点として、連携をしかけていくことになるかと思います。まずは、いろいろお声がけをして、連携を深めていくことが大事だと考えています。

【矢口市長】

ジュニアドクター鳥海塾では、大学の先生や学生が、小中学生にＩＴを教えているのでしょうか。

【神田委員】

学生と教員で進める 2 年間のプログラムです。1 年目はプログラミング教育を行い、2 年目は継続したい子供たちが、自分の探求テーマを設定して、これまでの学びを生かしながら各自で進めていきます。その際、教員がついて指導する体制になっています。

中には、学会発表をするようなレベルの高い取組を行う中学生も出てきており、機会を与えることで子供たちは大きく伸びることが分かります。そうした場を提供できるかが非常に重要だと感じています。今年でジュニアドクター鳥海塾は終了しますが、来年度以降も継続できるように検討をしています。

【矢口市長】

学会発表については、新聞にも載っていましたね。1 年間で何人の子供たちを受け入れているのでしょうか。

【神田委員】

毎年、第一段階が 40 名、第二段階ついては選抜がありますので 10 名受け入れていました。

【鶴田委員】

私が日々接している子供の中で、美術が好きな子がとても多いです。芸術系の大学に進学する子もそこそこ多いのですが、そういった子たちであっても、美術館に行く機会がなかなかないと言っていました。せっかくこの地域に土門拳記念館や酒田市美術館をはじめ、素晴らしい文化施設があるにもかかわらず、授業の一環で訪れる機会はあっても、自分から行こうと思えるところまでは至っていない印象です。

せっかく素晴らしい施設や作品がたくさん収蔵されている場所があるのに、活かさない手はないと思います。そこで、9 年間を通した学びのプロジェクトとして、美術館等と長期的に連携し、子供たちがもっと気軽に足を運べるような仕組みを作ることが重要だと思います。確か、中学生まで入館料が無料ですよね。それなのに、行っていないのは本当にもったいな

いと思います。ハードルを少しでも下げる意味でも、こういった授業を取り入れるのもよいのではないでしょうか。

【矢口市長】

ありがとうございます。学校でも１回は行く機会があるのですが、どうしたら再度足を運んでくれるかが課題です。ぜひ、第四中学校区から考えていければと思います。

【工藤委員】

京田工業団地の観点からですが、現在、高校生に対して、こんな企業が京田工業団地にあるんだよと説明をする機会をいただいています。これを小中学生バージョンでも実施できたらよいのではないかと思います。実際、近くにある企業のことを知らない人が多いのではないでしょうか。特に小中学生は、仕事について知る機会が少ないと思いますので、こうした機会を提供することは非常に有意義だと思います。

また、京田工業団地に隣接する産業技術短期大学校庄内校もありますので、こちらとも連携できるのではないでしょうか。

【矢口市長】

ありがとうございます。京田工業団地の皆さんも、地域のために何かしたいと考えてくださる社長さんが多いという印象です。

【阿部委員】

第四中学校区は企業も多いが、飲食店も多く、さらには田畑も広がる地域です。現在も子供たちが田植え等の体験をしているようですが、これをさらに広げて深めていけるのではないかと思っています。職業体験としていろんな会社に行って体験する機会はありますが、もっと地域に携わる機会が増えるとよいのではないでしょうか。

また、保護者の観点から言うと、先生と保護者の接点がもう少し増えればいいかなと思っています。働き方改革などで、先生と保護者が接する機会が減っていると感じており、例えば、ＰＴＡなど学校以外の集まりに先生がいらっしゃらない場合もあります。もちろん、すべての場面ではありませんが、このあたりも解決できる方法があればいいなと思っています。

先生と保護者が繋がっているほど、解決できることはたくさんあると思っていますので、その繋がりが新しい義務教育学校で広がっていくことを期待しています。

【矢口市長】

保護者と教員が同じ方向を向いて協力すれば、子供たちへの対応もうまくいきますよね。

【赤坂教育長】

最後に、阿部委員から出された保護者と教員の接点についてですが、働き方改革もあり、なかなか難しい面があると思います。しかし、やはりそこが一番大切な部分だと思います。保護者の方に来ていただき、そこで直接話す時間を持つことが重要だと感じています。夜だとどうしても参加できない保護者の方も多いですから、その点を考慮する必要があります。

例えば、ＰＴＡ総会や授業参観のような機会に、保護者と教員が十分に話せる場を作ることが大切で、そのような環境を整えることがまず必要だと考えています。その際、子供たちはどうするのかという問題が出てきますが、地域のボランティアの方々や地域の先生方に子

供たちを見守ってもらうことができれば、非常によいと思います。その中には企業の人や大学生、大学の先生も含まれるでしょう。いろんな方々が学校に関わり、その中で大人と子供たちが交流できる環境が整えば、連携の面でも素晴らしい効果があるのではないかと思います。

さらに、学校に来てもらうだけでなく、今度は子供たちが地域に出かけていくということが大切です。お互いに行き来できる関係づくりが非常に重要だと感じています。義務教育学校では、仮称ですが「地域交流室」という部屋を設け、地域の方々が常に訪れ、子供たちと関われるようなスペースを考えています。とにかく、たくさんの方々に学校に入ってもらい、また多くの子供たちが地域に出かけて行って欲しいなと思っています。

【矢口市長】

ありがとうございました。さらに具体的になっていくと、またいろいろなご意見が出てくると思いますので、ぜひ教育委員の皆様から、新しい学校について気付いたことを、毎月の教育委員会でもお話しいただければなと思います。教育長とは、このことに限らず、本市の教育のあり方について共有していますが、やはり一人ひとりの子供にチャンスを与え、先生だけでなく地域の方々とも関わりながら、さまざまなチャンスを提供し、子供たちが自分のやりたいことを見つけられる学校になればと思っています。「よりよい社会と幸福な人生の創り手」の育成について聞いたことがありますが、義務教育学校だけではなく、本市のすべての学校が実現できることを願っています。教育委員会の皆さんを信頼しておりますので、一緒に良い学校を作っていきたいと思います。

定例の教育委員会でも話し合いが進んでいることと思いますが、今一番心配しているのは熊の問題です。保護者の方々に送り迎えをお願いしているケースもあると聞いています。お子さんがいるご家庭にはいろいろなケースがあることを理解してもらうことが重要です。企業さん含め市全体で意識醸成を図っていくことが、私の役割だと思っています。

（３）その他

【矢口市長】

その他何かありますでしょうか。

【伊藤企画調整課長】

次回の総合教育会議につきましては、2 月 6 日 13 時 30 分から予定しております。詳細含め、日程等につきまして改めて皆様の方にご連絡を申し上げますので、どうぞよろしくお願いいたします。

【矢口市長】

ほかにいかがでしょうか。ないようでしたら、本日の会議の協議事項については、以上といたします。忌憚のない率直なご意見いただきましてありがとうございました。引き続きぜひ酒田市の教育行政にお力添え賜りますようよろしくお願いいたします。

４　閉　会　（伊藤企画調整課長）